

## 事業報告

(2023年4月1日～2024年3月31日)

### I. 施設の企画・運営・管理事業（静岡市女性会館指定管理事業）

これまで自粛されていた事業は、新型コロナウイルスが2023年5月に「5類」へ移行し、徐々にコロナ前の規模で行われるようになった。

講座企画運営事業は、若い世代へのアウトリーチに注力した結果、受講者全体の半数近くを10代が占めた。出前講座では職員が講師を務めることも多くなり、職員のスキルアップにもつながっている。相談事業でも若年者の利用促進を目的に、8月と12月にガールズ電話相談を施行した。SNSを利用して広報したものの利用者は数人に留まり、あらためて若年者向けの広報の難しさ、利用促進の難しさを感じた。

情報収集・発信事業では、さまざまな背景を抱えた人たちへの情報提供だけでなく、図書コーナーのレイアウトの変更や寄贈された授乳室を活用したキッズスペースの設置など、居場所としての機能の充実を模索している。

これまで活動を自粛していた利用団体が少しずつ活動を再開し始め、貸室の稼働率や利用者数も前年度に比べ増加している。一方で近年は風水害も増え、2022年の台風15号の教訓から6月の台風2号の折には貸室を中止にした。

開館から30年以上が過ぎ、大雨が降ると一部の貸室や相談室で雨漏りが生じる。2023年度は冷温水発生器の故障やトイレの排水管詰まりなど、相次いで設備の不具合が発生した。備品や設備の老朽化が目立つため、日々のメンテナンスが欠かせない。

#### 1. 男女共同参画推進事業

事業名	内容	実績
講座企画運営事業	23ジャンル56回の講座を実施。	参加者 延べ2,034人 新規利用者837人 満足度98.1% 理解度96.9%
団体活動支援事業	①利用者（講座受講者）アンケート ②わいわい祭り	①回答者 延べ1,093人 ②1,165人参加
情報収集・発信事業	①Jo-Shizuメンターバンク ②人材紹介 ③情報誌等発行 ほか ④WEBでの情報発信 ⑤図書コーナー運営	①交流会参加 14人 ②延べ9人 ③延べ9,000部 ④HP 延べ35,824人 ⑤新規298人 貸出冊数17,503点
相談事業	①女性のための総合相談 ②にじいる電話相談 ③女性のための就職・転職・キャリア相談	①1,706件 内、新規484件（人） ②38件 ③35件
その他事業	①職場体験・インターンシップ ②視察・ヒアリング	①中学生9人、高校生4人・大学生2人 ②延べ5回64人

#### 2. 施設管理運営事業

	開館日数	利用件(区分)数	利用者数	利用率
2023年度	334日	7,236件	65,751人	48.1%
(参考)2022年度	333日	7,064件	61,506人	47.2%

#### 3. 組織運営

事業名	回数	参加延べ人数
外部研修	22回	28人
内部研修（スーパービジョンは除く）	9回	88人

(2022 年度の課題に対して)

- 男女共同参画センターの機能強化に関する国の動きにも注目し、NWEC 等を活用しながら職員のレベル向上を図る必要がある。
- ☞ コロナ禍を経て国等の研修もオンラインで行われることが一般的になり、以前に比べ研修に参加しやすくなった。職員の多くは業務に必要なスキル向上を目指し、積極的にオンライン研修を活用している。
- 退職や体調不良による休職など、職員に欠員が生じた場合の職員の確保と育成が急務となっている。
- ☞ 健康上の理由での相談員の休職や退職が続き、相談員の定着と採用に苦慮した。相談員不足は事務局長が臨時に相談員を務めることで対応したが、相談員を募集しても応募がない状況が続いたため、年度末、本課に相談して相談室の開室時間の見直しを行った。今後も経験の浅い職員の育成に力を入れ、研修を充実させ、力量形成とともに定着を図っていきたい。
- 電気代やガス代の高騰により、光熱費がどれだけ増加するか算定が困難。省エネに努めるとともに担当課との相談を密にする必要がある。
- ☞ 光熱費の高騰により、光熱水費の支出が昨年度の実績を大きく上回ったものの、光熱費の上乗せ分に対応できた。今後も電気・ガス代の高騰が予想されるため、さらなる省エネに努めたい。

(2023 年度の成果)

- ・新規利用者は 1,619 人、講座受講生の理解度は 96.9%と協定の数値目標を上回った。
- ・職場で裁量権を持つようになったアイセル女性カレッジの修了生の教員から、中学校や高校への出前講座の依頼があり、若い世代に向けて講座を実施できた。出前講座では職員が講師を務めることも多く、職員の力量形成にもつながった。

(2023 年度の課題)

- ・相談事業では、若年者の利用促進を目的に SNS を利用してガールズ相談の広報したもの利用者は数人に留まった。あらためて若年者向けの広報の難しさ、利用促進の難しさを感じた。
- ・2024 年度の施設管理等の負担金について葵生涯学習センターの指定管理者である文化振興財団と折り合わず、年度内に合意できなかった。

## II. 男女共同参画社会を形成するための講座・研修事業

事業名	実施	内容	実績	備考
①内閣府地域女性活躍推進交付金事業・静岡市委託 女性のための支援者養成事業	9/2～12/17	女性のための支援者養成講座+ (プラス) 連続 5 回うち 1 回を公開講座として開催 対象：昨年度受講者及び支援者	35 人受入 延べ 170 人	継続
	1/23 1/30～2/15 1/15 2/16	地域コミュニティのセーフティネットの拡充 民生委員・児童委員 地域包括支援センター職員 静岡県立大学看護学部大学院 静岡市立静岡専門学校	397 人 19 人 18 人 41 人	新規
②もっと楽しい両河内に (実践編)	6/8 6/22 7/6	20～40 代の女性を対象に若い世代が住みやすい両河内にするためのアイデアを出し合い、女性が活躍できる場づくりなどのアクションプランを立てる。	延べ 18 人	継続
③市政を身近に考える会	4 月～ 3 月	不定期に会合開催、受講者とのふりかえりの会 開催 1 回 政党各支部に女性議員を増やす要望書を提出し、アンケートを依頼。8 支部よりの回答が得られた。	新聞記事にて公表	継続
④掛川市委託 働き方セミナー事業	2/5	「働く女性のためのロジカルコミュニケーション入門」参加型ワークショップ形式で開催	23 人	継続

(成果)

- ①「女性のための支援者養成講座+ (プラス) は、昨年度の講座のステップアップ編として開催し、昨年度扱えなかったテーマについて見識を広めることができ、受講者のモチベーションアップにもつながった。今年度は地域コミュニティのセーフティネットの拡充をするために、地域の関係機関への出前講座を併せて実施。対象に併せたテーマを設定しつつも、基本となるジェンダーの視点からの支援の在り方を伝えることができた。
- ②前年度に続き講座の依頼があり、中山間地に住む子育て世代の声を聞くことができた。移住や起業に取り組む先進事例も紹介でき、事例報告者と参加者をつなぐことができた。
- ③政党各支部に出したアンケートは 8 支部よりの回答が得られた。その結果を静岡新聞に提供し、12 月 29 日に大きく掲載された。多くの人に女性議員の少ない静岡市の実態を知ってもらうことができた。
- ④担当者が変わっても継続して受託できた。

(課題)

- ①人材育成に関しては、毎年同じことをやっても新しい受講者が増えないため、ステップアップ編としたが、実際にはすでに何らかの支援についている人が受講するケースが多く、新しい人材発掘にはつながりにくい。
- ②中山間地にすむ子育て世代の女性は少なく、2 年連続して受講した人がほとんどであった。次年度も依頼があれば、対象について検討が必要。
- ③前年度の講座受講者から、市議員に立候補する女性を出すことを目指したが、難しかった。会として今後の活動について、継続も含め検討が必要。
- ④主催者が受講者数ある程度確保するために対象を広く設定した結果、本来ターゲットとしない人の参加も受け入れざるを得なかった。

### Ⅲ. 男女共同参画社会を形成するための情報の収集・発信・交流事業

#### 1. 情報収集・発信事業

事業名	実施	内容	実績	備考
広報ツール再構築	12 月 12～3 月	・会員向けに「2023 PROGRESS REPORT」発行 ・法人 WEB サイトのリニューアル	30 部 —	新規 再
女子高校生応援プロジェクト	10 月～	女子高校生の支援ニーズを探る WEB アンケート (10/11～11/10)	257 件 回収	新規
「しずおかのひみつ」みんなの図書館 1 箱棚主	2/1 から 1 年間契約	与えられた棚に「本・本に関わるもの」を設置。ジェンダー平等の啓発ができるような本をスタッフから集めて展示	展示 19 点 貸出 2 点	新規

#### 2. 交流事業

事業名	実施	内容	実績	備考
男女共同参画事業に携わる方のための基礎実践研修	9/7～8	全国女性会館協議会主催の基礎実践研修@静岡の実施運営協力	協力 2 人	新規
全国女性会館協議会 第 67 回全国大会 (東京都)	12/10～11	基調講演、情報交換会	3 人	継続
3 法人意見交換会	3/5	男女共同参画センターの指定管理事業を担うジェンダー平等 Labota、男女共同参画ネット尼崎、フォーラムしずおかのオンライン意見交換会	4 人	新規

(成果)

- ・情報発信事業としては、事業や採用がある時しか情報発信していなかった法人のWEBサイトを、「仲間を増やし、地域での存在価値を高める」をコンセプトに、スマートフォンでもわかりやすい画面構成にリニューアルすることができた。また、スタッフの提案で、静岡市中心部に設けられたスペースに1箱棚主としてジェンダー関連の本や情報を提供し、女性会館を訪れない層のアクセスポイントをつくることができた。
- ・交流事業としては、今年度も静岡市女性会館も会員館となっている全国女性会館協議会の基礎実践研修に協力した。静岡市女性会館を会場として、職員や理事も研修や懇親会に参加した。全国の男女共同参画センター等の関係者と交流を深めることができた。
- ・昨年「ヌエックフォーラム 2022」に合同でWS出した団体とも、引き続き意見交換会を行い、人材確保や育成などについて話し合うことができた。

(課題)

- ・当初予定していた広報ツールのリーフレット作成や女子高校生応援プロジェクトのニーズ調査など年度内に実施できず、2024年度に持ち越すこととなった。事務局では、会員拡大や新規事業拡大のための広報活動に注力したい。

#### IV. 男女共同参画社会を形成するための相談・サポート事業

事業名	実施日	内容	実績	備考
女性相談プラットフォーム運営業務委託事業	4～2月	内閣府地域女性活躍推進交付金事業・静岡市委託「女性のためほっとスペース『ふらり』開催(年16回開催)	延べ123人	継続
サニタリードライブほか	通年	●生理用品の配付 ふらり(市の提供品3パック×53セット含む) 下記アウトリーチ先(同175パック含む) ●日用衣料品の配付 (株式会社スクロールより寄贈) ふらり 199点 アウトリーチ先高等学校 35点	78人 下記参照  18人 32人	継続  新規
定時制高校アウトリーチ事業	5月～2月	中央高校、静岡高校、清水東高校定時制等への食料支援や居場所事業等を通じて、高校生の生活をサポートする。当団体は生理用品(市からの提供品昼用139個夜用130個含む)を提供しつつ、高校生の声を聞く。 (連携団体:NPO法人POPOLO、NPO法人しずおか共育ネット)	計26回 延べ388人	継続
男女共同参画推進にかかわる人材紹介・各種相談	随時	しずおか女子きらっブランド2023 他薦 選挙管理委員 他薦	各2人	継続
地域デザインカレッジ修了生支援	随時	両河内でのチャリティバザーに協力他		継続
静岡学習支援ネットワーク団体支援	5/26	ガイダンス実施	1回	継続

(成果)

- ・女性のためのほっとスペース「ふらり」は、開催回数が増えたことから、昨年度の女性支援者養成講座に参加した人からスタッフを募り、参加者のサポート体制を充実させることができた。スタッフになった受講者も積極的に参加者に声掛けをし、寄り添っている姿が見受けられた。
- ・企業に依頼し、衣料品の寄贈を受け、食糧や生理用品の配付対象者に、新しい衣料品を提供することができた。

(課題)

- ・「ふらり」の清水会場の参加者が少なく、1年間の試行で清水会場は閉鎖されることになった。予算の削減

で、2 か月に 1 回の開催では定着しにくいのと、分かりやすい曜日設定での会場確保が難しく広報活動が十分にできなかったことが要因と思われる。

- ・静岡学習支援ネットワークは、学生代表や事務局メンバーが毎年度変わるため、年度当初に会館利用の規則の周知、事業の紹介などの時間を毎年度、必ず設けたい。職員と学生の顔の見える関係づくりを心掛けたい。

## V. その他

### 1. 職員等の講師派遣事業

依頼元	実施	内容	実績	備考
NPO 法人しずおか共育ネット	5/29	探究学習（清水西高校講師派遣）	14 人	新規
千代田 7 丁目自主防災会	6/24	防災出前講座	8 人	新規
焼津市市民協働課 焼津市利右エ門自治会	6/30	男女共同参画アドバイザー派遣事業	20 人	新規
国立女性教育会館	8/26	女性関連施設相談員・相談事業 担当者研修	48 人	新規
西部生涯学習センター	11/1	西部女性学級「～ママから私へ～これからの生き方・働き方」5 回目	7 人	継続

### 2. 他機関の調査研究協力

依頼元	実施	内容	実績	備考
一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク	12/27	SDGs 取組に関する NPO・市民活動団体の全国調査及びインタビュー調査協力	報告書 HP 公開	新規
国立女性教育会館	1/29	「女性のキャリア形成や意思決定過程への参画についての調査研究」における座談会	報告書 HP 公開	新規

### 3. その他

静岡市から依頼を受け、男女共同参画審議会、女性活躍応援会議、防災会議、水防協議会、静岡駅南口駅前広場再整備検討委員会に職員を推薦。

代表理事・副代表理事の他機関協力

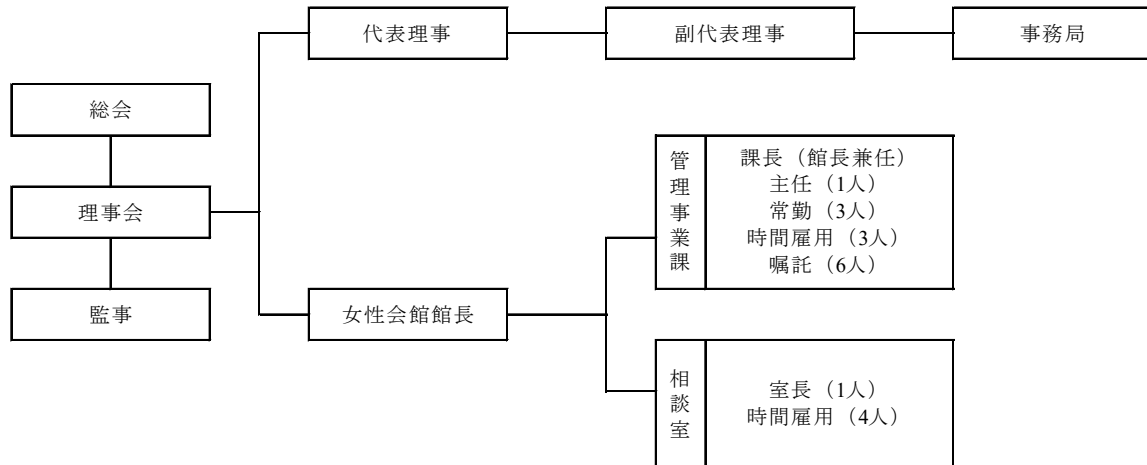
依頼元	月日	事業名	担当
焼津市	4/15	23 年度市民公益活動事業報告会	川村
静岡県県民生活局男女共同参画課	6/12	あざれあ外部評価委員会	松下
焼津市	6/18	23 年度市民公益活動事業費補助金審査会	川村
福岡県男女共同参画センター	8/9、25	あすばる 男女共同参画担当職員研修	松下
静岡県立大学地域・産学連携推進室	11/1	静岡の市民活動	松下
国立女性教育会館	1/16～2/13	地域における男女共同参画推進のための事業企画研修	松下
静岡県県民生活局県民生活課	8/2、2/15	静岡県パートナーシップ委員会	松下
静岡県県民生活局県民生活課	3/13	FSN 選定委員会	松下

## VI. 組織部門

### 1. 会員

正会員 23 人 賛助会員 10 人 (2024/3/31 現在)

### 2. 組織図



### 3. 総会

開催日時	名称	正会員数	出席者数	書面評決書提出	委任状提出
5/29 10:00~11:30	第18期通常総会	19人	8人	7人	3人

### 4. 理事会

回	開催日	主な審議事項案
第1回	5/15	①2022年度の事業報告案・決算報告案について ②2023年度の事業計画案・予算案について
第2回	10/24	①2023年度事業の進捗について ②2023年度の予算執行状況についてほか
第3回	3/9	①2023年度事業の進捗について ②2023年度の予算執行状況について ③2024年度の事業の方向性及び運営体制ほか

### 5. その他

#### ①女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画策定（アドバイザー派遣事業活用）

承認 2月20日承認

計画期間 令和6年4月1日～令和9年3月31日（3年間）

目標 全職員の年次有給休暇の年間平均取得率を80%以上とする。（2022年度平均 69.6%）

取り組み内容と実施時期

- ・令和6年4月～ 有給休暇の取得状況の実態を把握し、目標数値を法人内で共有する。
- ・令和6年4月～ 有給休暇取得率の低い職員に対して、個別的な呼びかけを行う。
- ・令和6年4月～ 有給取得推奨期間を設け、計画的に有給休暇を取得する環境整備の検討に入る。

#### ②能登半島地震の被災地を応援する活動支援金マッチングギフト

2024年1月24日から2月29日まで行われた全国女性会館協議会主催の募金活動に協力。

職員等から寄せられた寄付額34,500円と同額を法人からも寄付。

(成果)

- ・事務局を設置し、事務局長を配置できた。
- ・犬塚理事や谷口理事が国立女性教育会館や全国女性会館協議会に関わり、内閣府が打ち出した男女共同参画センターの機能強化策や困難女性支援法など、国の動きをいち早く知ることができた。そのため国の動きに注視しながら事業を進められた。今後もいち早く得られる情報を共有していきたい。

(課題)

- ・事務局長には、女性会館事業の後方支援やその他委託事業に従事してもらうことが多く、事務局としての機能は十分果たせなかった。
- ・理事会も4回開催する予定が3回の開催だった。議論すべき課題が多く、理事から積極的な発言があったが時間内に結論が出せず、持ち越すことが多かった。